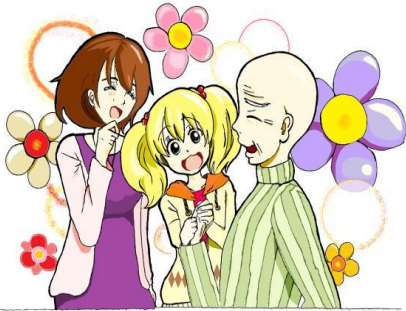


myらいふ

● 記事のご案内 ●

1985. 4. 25~
-145号-



- ① ヘルマン・ヘッセ展 ~少年の日の思い出~
- ② フォレストアリーナソフトバレーボール大会
- ③ 親子体験学習・行事編「おせち料理を作ろう」
- ④ ふるさと鹿沼体験講座「きびがら細工を作ろう」
- ⑤ ギャラリー・コンサート「イタリア・バロック歌曲とチェンバロのタベ」
- ⑥ かぬま学びフェスティバル' 15

myらいふは、市民編集員が取材・編集する生涯学習情報記事です。

『ヘルマン・ヘッセ展~少年の日の思い出~』

名作「車輪の下」のノーベル賞作家ヘルマン・ヘッセの「少年の日の思い出」という作品を覚えていますか？ 蝶類の収集に夢中の少年が級友の貴重な蛾を思わず盗んでしまい、罪悪感から自分の標本を壊してしまうという話です。昭和22年(1947年)以来現在まで60数年以上も、日本の中学国語教科書に収録され続けています。この作品を題材にした『ヘルマン・ヘッセ展~少年の日の思い出~』が昨年11月末から約2週間、鹿沼市立図書館本館1階展示ホールで開催されました。11月29日(日)には2階視聴覚室で「講演会と語りの会」が催され、50名近くの方々が日本昆虫協会理事で栃木県職員の新部公亮さんの講演と、伊藤しのぶさんの語りに聴き入りました。



はじめに伊藤さんが台本無しの完全な暗誦で、「少年の日の思い出」を約30分の見事な語りで披露してくれました。語りの内容に合わせて、ヘッセの水彩画、蝶や蛾の標本などが同時にスクリーンに映し出され、作品世界が目の前にも広がりました。

後半の新品さんの講演のテーマは「文豪ヘッセとスイスと日本」。10歳の頃から昆虫採集に親しんできた新品さんと「少年の日の思い出」との関わりが、多くの写真とともに興味深く語られました。作品に登場する昆虫標本を2009年に作成した新品さんは、ヘッセゆかりの地での展示を思いつき、当時下野市に滞在していたドイツ人女性の尽力で、現地の3つのヘッセ博物館全てで展示会を開催することができました。また、その経緯の中で生まれた各界の多彩な方々との交流や、さまざまなエピソードも楽しく語っていただきました。

今回の鹿沼での展示と講演はちょうど30回目で、今後も日本では各地を巡回してゆく予定とのこと。ヘッセ・ファンや昆虫愛好家はもちろん、幅広い層の方々にも味わい深い展示と講演・語りの会になりました。



第16回 フォレストアリーナソフトバレーボール大会 開催!

12月13日(日)フォレストアリーナで「ソフトバレーボール大会」が開催されました。ソフトバレーボールとは、ゴム製の柔らかいボールを使った、4人制のバレーボールのことです。生涯スポーツの一環として、小学生から高齢者まで幅広い年齢層の人たちが、ともにソフトバレーボールを通して家族のコミュニケーションや地域住民の親睦及び健康・体力の保持、増進することを目的にしています。

今大会では、一般の部と小学生の部あわせて53チームが参加し、午前9時に開会してから午後5時まで選手たちの熱い戦いが繰り広げられました。

試合前に、選手たちは円陣を組んで「絶対勝つぞ!オー!」と気合を入れてからコートに入っていきます。そして試合が始まると、「決めろ」「イケー」という選手からのかけ声だけでなく、監督からも熱い指示が飛びます。サーブで連続得点したり、強烈なスパイクをレシーブしたときなどは大きな歓声が上がります。会場は熱気に包まれていました。試合は手に汗握る混戦模様でしたが、試合が終わると、勝敗に関わらず会場からは自然と選手たちに拍手が送られました。選手たちもお互い笑顔で声かけし、和やかな雰囲気でした。「楽しかった」との言葉があちこちから聞こえてきました。

この大会をきっかけにソフトバレーボールを好きになってもっとスポーツの輪が広がってくれたらいいな、などという声が聞かれました。



親子で楽しくおせちにチャレンジ!

親子体験学習行事編「おせち料理にチャレンジしよう」が12月5日(土)市民情報センターで行われました。この日は8組の親子が参加。講師は岩本雅子さんと鈴木洋子さんです。この講座は、おせち料理を通して「親子のふれあい」を育むことを目的に行われました。岩本先生はだて巻きが得意なのがきっかけで、おせちを教え始めたそうです。今回は、田作り・だて巻き・若鶏の照り焼き・紅白なます・炒り鶏の5品目を作りました。

講座が始まると早速みんなで調理に取りかかり、先生は作業の合間に分かりやすくポイントを説明してくださいました。熱いものを扱うときは「危ないよ」といった掛け声を子どもの方から掛けていました。また包丁を使うときは、持ち方をお父さんお母さんに教わりながら、安全面に気をつけていました。親子で協力しながら作業を進めていき、最終的にはどの親子も短い時間の中で、色どり豊かなおせち5品目を作り終えることができました。

子どもたちは、「楽しかった」と話しながら、おいしそうに試食していました。小学3年生の女の子は「おせち料理を初めて作った」とうれしそうに笑顔を見せてくれました。お父さんお母さんたちも「家でもまた一緒にやってみよう」と楽しそうに話してくれました。

小さなシェフたちはとても立派にみえました。きっとお正月前の本番でも、活躍してくれたことでしょう。



ふるさと鹿沼の民芸品 「きびから細工」を体験

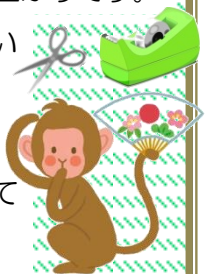
11月9日(月)ふるさと鹿沼体験講座の「きびから細工を作ろう」が市民情報センターで開催されました。講師はきびから工房の房主丸山早苗さんです。

きびから細工とは、鹿沼箒の材料である箒草を使い、古来から伝わる箒編みの技を駆使して創り上げたものです。今回の講座では、鹿沼ならではの郷土玩具として親しまれているきびから細工十二支の中で今年の干支となる「さる」を製作します。きびから細工の中で、唯一表情を作るのがさるです。前のテーブルには、きびから細工で作られたさるの本体が並べられ、自分好みのものを1つ選んだら顔を描く練習をします。「さる」の目や鼻や口がどのようなだったかを思い出しながら紙に描いてみます。「かわいらしく描くつもりがお父さんみたいになっちゃった」「かえるみたい」などの言葉が飛び交い楽しそう。描く人の人柄が出るという顔の表情は本当にどれも違って個性的。私だけの「さる」が完成しました。次に、屏風または式台のどちらかを選び小道具を作ります。

厚紙に糊で和紙を貼り縁にぐるりとテープを貼りつけて出来上がりです。

完成した作品を並べて記念撮影。どのさるもニコニコと笑っていてとても良い表情をしています。良いことをたくさん招いてくれ、さる年の今年1年を幸せにしてくれそうです。

きびから細工十二支は、「まちの駅 新・鹿沼宿」で展示販売されています。ぜひ一度ご覧になってみてください。



バロック音楽で至福の時を

12月19日(土)川上澄生美術館2階展示室にてギャラリーコンサート「イタリア・バロック歌曲とチェンバロの夕べ」が開催されました。チェンバロ奏者は臼井雅美さん、ソプラノは中丸知美さん、おふたりとも東京音楽大学で学び、バロック音楽に魅せられ活動なさっています。

コンサートは演奏者自らが念入りに調律をしてからはじまりました。満員の会場に響くチェンバロの音は、幾重にも重なる響きが華やかで荘厳なイメージです。そこに柔らかく透明感のある歌声が加わると、一瞬にしてその場の空気が変わり観客をとりこにしたようでした。チェンバロという楽器は一見するとピアノに似ていますが、音の出し方が違い、どちらかというともギターなどの弦楽器に近いものです。リュート(古いギター)の音を出すこともでき、リュート音での演奏もありました。非常に繊細な楽器で、湿度が多い美術館では途中何度か調律をしながら演奏を進めました。

イタリアバロック歌曲というのは、愛の歌、中でもせつない思い、報われぬ思いを嘆く歌詞が多いとか。この日はひとつの歌詞に2人の作曲家が曲をつけた「昼も夜も涙して」、オペラから「アリアンナの嘆き」、歌曲以外では高い技巧に目を見張る「トッカータ第7番」など、バラエティに富んだ選曲で1時間があっという間に過ぎていきました。

観客の中にはわざわざ東京から中丸さんの歌を聴きにきた人もいて、美術館とバロック音楽のコラボレーションが素晴らしいと語ってくれました。他にも「もう少し聴いていたかった」「またぜひ聴きたい」「身近なところでこんなに素晴らしい音楽を聴くことができて幸せです」など、みなさん大変満足されている様子でした。



伝えよう！学びの熱意

かぬま学びフェスティバル'15

10月17日(土)、18日(日)の2日間にわたり、市民情報センター、文化活動交流館、図書館、川上澄生美術館で「かぬま学びフェスティバル'15」が開催されました。かぬま生涯学習大学、鹿沼市教育委員会、鹿沼市、かぬま・マイカレッジの共催で平成18年から毎年行われているこのイベントは、かぬま生涯学習大学の講座やサークル活動で学ぶ方々が、実演・作品展示・体験・模擬店を通して日頃の学習の成果を広く市民に発表できる学習発表会です。

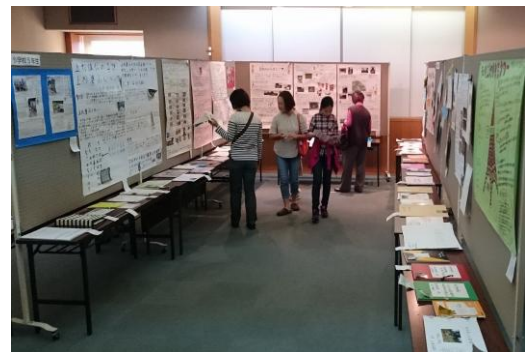
天候に恵まれたこともあり来場者も多く、特に情報センター1階の実演スペースでは、ダンスやミュージカル、楽器の演奏などが行われ、たくさんの観客で賑わっていました。ひとつでも多くの「学び」を味わうために図書館などいくつかの会場を行き交う人や、焼きそばやベリーちゃん焼きなどを堪能する人、スタンプラリーをはしゃぎながら楽しんでいる子どもたちがたくさん見受けられました。



実演「フラダンス」



作品展示「パッチワークキルト」



作品展示(図書館)「社会科展」



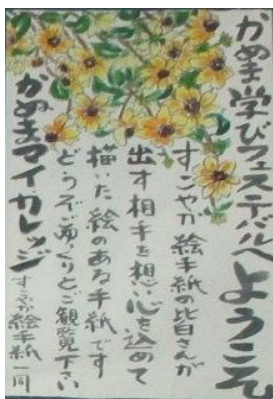
スタンプラリーの景品
「お菓子のつかみどり」



模擬店「ベリーちゃん焼き」



体験「絵手紙」



ひとつひとつの「学び」からは、自分たちの学びの成果を少しでもよりよく伝えようとする発表者たちの熱意が感じられました。「絵手紙」の体験を運営していた山崎先生にお話を聞くと、「初めて体験する方にも楽しんでいただけた。この絵手紙が少しでもみなさんの生活の励みになればと思いこのフェスティバルに参加している」と温かい言葉をいただきました。❤️
多種多様な学びがカタチになった「かぬま学びフェスティバル'15」。情熱で溢れたひとつひとつの学びの結晶は、多くの来場者のみなさんに元気を差し上げたのではないのでしょうか。

編集後記

新しい年がスタートしました。花や野菜作りが大好きな私にとってはこの時期は春に向けての準備期間です。今から春の植え付けのことを考えるとワクワクします。さあ、みなさんも春に向けて何か新しいことを始めてみませんか？

藤沼